

# 市民マラソン大会の存在意義

## －千曲市の市民マラソン大会を事例に－

宮原 直輝 （ 信州大学 ）

### 1. はじめに

昨今、市民マラソン大会は大都市をはじめ、全国各地で開催されている。東京マラソンや大阪マラソンなど大都市、地方の主要都市や県庁所在地で開催される大会は一般的に知名度が高く、参加申し込みが抽選になるほど人気を見せており、大会開催に伴う経済効果も数値にすると億単位になるほどのものであるとわかっている。一方で、地方の小規模都市で開かれる大会は上記の都市と比べ大会規模の大きさ、知名度や集客力、そして経済効果等への期待性を鑑みても大都市には到底及ばない。それでもなお当該地域において市民マラソン大会が継続して開催されていることにはやはり何らかの意義があってこそそのものだと考えることができる。本研究では、地方で開催されるマラソン大会に焦点を当て、インタビュー調査を通じて市民マラソン大会の実態はいかなるものかを把握し、地方における市民マラソン大会の存在意義について明らかにすることをねらいとする。

### 2. 市民マラソンについて

市民マラソン大会はトップランナーによる「競技」としてのマラソンではなく、一般市民が参加できるマラソン大会のことを指す。市民マラソン大会の草分けは1967年初開催の青梅マラソン大会とされている。それまでは一般ランナーの参加はほとんどなかったが、東京五輪マラソンメダリストと一般市民がともに走る企画を試みその後の大会でも陸上という種目に限らずバレーボールのオリンピックなどを招くことで参加者が着々と増加した。また、1976年の『ランナーズ』創刊も後押しした結果ランニングブームが巻き起こった。その後、2007年の東京マラソン大会初開催をきっかけにジョギング・ランニングをする人々が再度増加したことにより、今では全国各地で市民マラ

ソン大会が健康増進、スポーツの進展、地域活性化などバラエティに富んだ目的で開催されるようになった。「JAAF RUNRINK」によると推計ではあるが大都市、地方都市含め約2,000～3,000の市民マラソン大会が開催されていることがわかっている。

### 3. 聞き取り調査から

地方の小規模なマラソン大会は実際のところ、定員割れが常態化しており、地域の事情による開催時期の不定期化、大会収支も赤を示すなど運営面において苦境に立たされている現状が明らかとなった。大会における経済効果に関しても市が把握している限り、宿泊に関してもごくわずかな程度のもので、数字ではっきりわかるほどの結果が現れていないということが明らかになった。つまり、大会開催による経済効果は期待されるほど生みだされていないことがわかる。

一方で、大会開催にあたってコースの中に観光資源を取り入れる、景品、参加賞に地域資源を取り入れるなど他地域からの参加者が多い中で地域の魅力を発信するきっかけを創出していることがわかった。さらに大会開催には主催の行政だけでなく、企業、ボランティアをはじめとした地域住民が関わるためそれぞれが与えられた役割をこなす中で地域が一体化しなければ大会は成り立たないものだとわかった。

### 4. 纏めにかえて

市民マラソン大会の開催の社会的意義は、経済効果などの数値にあらわれる形で地域に貢献するのではない。地域の魅力の発信や地域の一体感の創出といったような地域形成の役割を担っているのである。